



「願いごとふうせん」

## ◆沿革

商店街をぶらり歩くと、ビルや倉庫に描かれた巨大な壁画が目飛び込んでくる。壁画の題材は童話作家で有名な新美南吉やその作品。商店街の至る所に描かれたカラフルな壁画が、訪れた来街者を優しく出迎える。この「南吉ウォールペイント」を手掛けるのは、「株式会社 安城スタイル」。安城中心市街地の活性化を目的に活動するまちづくり会社だ。

安城の中心市街地において活性化に向けた本格的な取組が始まったのは、「安城サンクスフェスティバル」が誕生した平成10年のことである。平成13年にはTMO「まちづくりAnjo」が設立され、現在も継続している空き店舗活用、まちの教室、まちなか産直市（現・安城まちなかホコ天きーぼー市）といった事業がスタートした。

㈱安城スタイル誕生の契機は平成22年のことだった。同年、安城市中心市街地活性化協議会※より、まちづくりに従事する「実働部隊」の必要性が唱

えられたことを受け、中心市街地の7商店街振興組合等の出資により誕生したのがまちづくり会社「㈱安城スタイル」である。当初、同社は官民の関係や各振興組合の垣根を越えた「実働部隊」として活動するまちづくり会社であったが、現在は「まちづくりAnjo」が担っていたプレーンとしての役割も引き継ぎ、企画から実行までをトータルに行っている。

以下では、㈱安城スタイルが現在取り組む「新美南吉資源活用事業」と「願いごとイベント展開事業」をご紹介します。

※安城市中心市街地活性化協議会とは、安城市中心市街地活性化基本計画実施にあたり必要な事項を協議する組織であり、商工会議所、行政、商店街、住民、NPO、ボランティア団体、学校、交通機関等の団体や組織によって構成される。

## ◆商店街を取り巻く環境

安城市の中心市街地周辺は明治時代の国鉄安城駅開設以降に発展したこともあり、宿場町や城下町に見られるような歴史や文化を感じさせる建造物が少ない。安城産業文化公園「デンパーク」を訪れる観光客はいるが、安城中心市街地からは距離があるため、来園者を中心商店街へ誘致するまでは至っていないのが現状である。

とはいえマイナス面ばかりではなく、安城市は行政、商工会議所、商店街の風通しが非常に良く、イベント時の連携には大きな強みを発揮する。これは安城七夕まつり等のイベントにおいて、行政が商店街を古くからバックアップしてきたことに起因する。



JR安城駅に着くと、まず目に飛び込んでくる駐輪場の壁画

## ◆取組を開始したきっかけ

前述したとおり、安城市の中心市街地には既存の観光地がない。このため㈱安城スタイルは、「安城のまちなかにある財産」を中心市街地の活性化に活用することを目指している。この「安城のまちなかにある財産」とは、「安城の中心

市街地に埋もれている観光資源」のことを指す。実際に、㈱安城スタイルの手によって掘り当てられ、観光資源として活用されているのが、以下で説明する「新美南吉資源活用事業」と「願いごとイベント展開事業」である。

## 取組

## 「新美南吉」資源活用事業



新美南吉（大正2年～昭和18年）は、24歳から29歳で生涯を閉じるまでの間、安城市にある安城高等女学校で教師生活を過ごした童話作家である。南吉の生誕や、著書「ごんぎつね」の舞台は半田市であるが、安城に在住した際にも「花のき村と盗人たち」や「おぢいさんのランプ」

を執筆しており、安城高等女学校があった現・安城市立桜町小学校内にはごんぎつねの情景を表した庭園があるなどゆかりも深い。このことから「南吉が青春を過ごしたまち 安城」活性化に向けた観光資源として活用するに至った。

## 取組の概要 &gt;&gt;&gt;&gt;

「南吉ウォールペイント」は、安城スタイルが平成23年から積極的に関わっている壁画プロジェクトである。JR安城駅周辺にある商店の外壁やシャッター等に描かれており、その数は25か所にものぼる。描かれているのは新美南吉が執筆した童話の世界等で、カラフルで優しい絵柄がまちの表情を豊かにしている。

また、新美南吉が平成25年に生誕100年を迎えるにあたり、新美南吉をより深く知るための場として「ギャラリー&カフェ南吉館」をオープンさせた。店内ではカフェやランチを楽しむことができるほか、新美南吉の人間像や執筆作品のパネル展示、グッズ販売等に加え、定期的に新美南吉作品の朗読会が開催されている。



▲南吉ウォールペイント

▶生誕100年を機に平成24年4月に「南吉館」をオープン